

2026年第3回京都競馬特別競走名解説

<第1日>

○あやめ賞

あやめは、アヤメ科の多年草。日当たりのよい乾燥した草地に自生する。初夏、花茎の先に黄色い筋のある紫または白色の花を咲かせる。アヤメ科には、カキツバタ、シャガなども含まれる。花言葉は「よい便り」「希望」。

○観月橋ステークス

観月橋（かんげつきょう）は、京都市伏見区の宇治川に架かる橋。古くは桂橋といい、豊臣秀吉の伏見城築城時に豊後大友氏によって架け替えられた際、豊後橋と呼ばれるようになった。その後、幕末期の鳥羽・伏見の戦いで焼失したが、明治時代に再建され、秀吉の月見の伝説にちなみ、観月橋と名付けられた。

○天王山ステークス

天王山（てんのうざん）は、京都府と大阪府との境にある標高270mの山。古来より戦略上の要地として知られ、争奪の舞台となった。1582年に羽柴秀吉が明智光秀を破った山崎の戦いが有名。この故事から、「天王山」は、勝負を決する大一番のことを指す比喻としても使われている。

<第2日>

○比良山特別

比良山（ひらさん）は、滋賀県の琵琶湖西岸に連なる比良山地の高峰群。蓬莱山・武奈ヶ岳・打見山などが並んでいる。近江八景のひとつ「比良の暮雪」に数えられた景勝地。

○センテニアル・パークステークス

センテニアル・パークは、京都競馬場の愛称。淀に競馬場が開設されて2025年で100周年を迎えたことにちなんで名付けられた。

センテニアル（Centennial）は、「100年の、100周年の」を意味する英語。

○読売マイルズカップ（GⅡ）

本競走は、マイル路線の拡充を目的として1970年に創設された重賞競走。『安田記念』の前哨戦として位置付けられ、春の短距離路線を歩む馬にとって重要な競走となっている。幾度かの変更を経て、2012年より阪神競馬場から京都競馬場に移設され現在に至る。

なお、第1着馬には同年の『安田記念』への優先出走権が与えられる。

読売新聞社は、東京・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○矢車賞

矢車（やぐるま）は、矢車草の略。ユキノシタ科の多年草。5枚の小葉が円形に配列された形が特徴。花茎の上部に小さな花が円錐状に集まって咲く。

○京極特別

京極（きょうごく）は、京都市内の地名。かつては京の端を意味し、平安京の東西両端には、東京極大路と西京極大路がそれぞれ南北に通じていた。京都の新京極通は、歴史ある商店街として、1872年の誕生から現在に至るまで栄えている。

○ユニコーンステークス（GⅢ）

本競走は、1996年に創設された重賞競走。ダート適性馬の年間を通じた出走機会の確保を目的に、3歳馬による初のダート重賞競走として創設された。当初は9月の中山競馬場でダート1800mの定量戦、2001年から6月の東京競馬場で1600mの別定重量戦で実施されていたが、2024年から『東京ダービー（大井競馬場）』の前哨戦として、春の京都競馬場における1900mの馬齢重量戦となった。

ユニコーン（Unicorn）は、ヨーロッパの伝説上の動物。馬の体をしており、ねじれた一本の角を持つ。神聖な力と純潔の象徴とされ、その角には邪気を払い、いかなる病気も治す力があると信じられていた。

<第4日>

○御池特別

御池（おいけ）は、京都市の中央を東西に通じる幹線道路の名称。名は、二条城の南にある神泉苑の池の前を通ることに由来する。沿道には神泉苑のほか、本能寺や京都市役所などがあり、日本三大祭のひとつである「祇園祭」では、山鉾（やまぼこ）巡行のコースとなる。

○六波羅特別

六波羅（ろくはら）は、京都市東山区の一地区。平安時代からの歴史上の要地で、平氏一門が拠点としていた。鎌倉時代には六波羅探題が設置され、京都朝廷方の監視など鎌倉幕府の政務を執行する役割を担っていた。

○朱雀ステークス

朱雀（すざく）は、中国の伝説上の神獣で、四神のひとつ。南方を守護する聖なる鳥とされる。中国唐の時代の条坊制を用いた都城でのメインストリートを朱雀大路と呼ぶ。日本においては、平安京の大内裏の南門中央部に位置する朱雀門から、南端の羅城門までの通りを朱雀大路と呼んでいた。

○天皇賞（春）（GⅠ）

本競走は、1905年5月6日に横浜の日本レースクラブが、明治天皇から「菊花御紋付銀製花盛器」を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。1906年以降は7つの競馬倶楽部で『帝室御賞典競走』が実施されたが、1937年に日本競馬会が誕生したのを機に、『帝室御賞典競走』は春が阪神、秋が東京と、年2回東西で実施されることとなり、戦争で中断される1944年春まで続いた。戦後の1947年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の『天皇賞』に改称され、春は京都、秋は東京で実施されることとなった。

○東大路ステークス

東大路（ひがしおおじ）は、京都市の東部を南北に走る大通りのひとつ。高野から東福寺付近まで通じている。沿道には京都大学のキャンパスのほか、知恩院や八坂神社など観光客で賑わう神社仏閣も多い。

<第5日>

○久御山特別

久御山（くみやま）は、京都府南部、久世郡に属する町。木津川堤防の内側に約4.7haの茶園が広がり、高級茶である碾茶を生産している。特に、「浜台の茶園」は長い歴史を持ち、日本遺産にも認定されている。

○鴨川特別

鴨川（かもがわ）は、京都市街東部を貫流し、桂川に注ぐ川。京都北山の棧敷ヶ岳付近に源を発する。高野川との合流点から上流を賀茂川、下流を鴨川と記し、総称では鴨川を用いる。三条大橋・四条大橋・五条大橋など20余の橋が架かり、四条河原は納涼地として有名である。

○京都新聞杯（GⅡ）

本競走は、1953年に『京都盃』の名称で創設された重賞競走。1967年に『菊花賞』のトライアルレースに指定され、1969年にはそれまでの別定重量（1956年・1959年・1960年はハンデキャップ戦で実施）から定量に移行、1971年に名称も『京都新聞杯』と変更された。さらに1984年には距離が芝2200mに延伸されるとともにGⅡに格付けされた。2000年に『菊花賞』の実施時期が繰り上げられたのに伴い、春季に移設された。この際、競走条件についても2000m・GⅢに変更されたが、2001年から再びGⅡとなり、2002年には2200mへと延伸された。2003年に負担重量が馬齢重量となり、現在に至る。

京都新聞は、京都新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○烏丸ステークス

烏丸（からすま）は、「烏丸小路」の略。東洞院大路と西洞院大路の間にあり、現在の烏丸通りとはほぼ同じものを指す。烏丸通りは、京都市の市街地中央を南北に通じる主要道路で、通りに沿って東本願寺・京都御所・六角堂・護王神社などの歴史的建造物がある。

○橘ステークス（L）

橘（たちばな）は、ミカン科の常緑小高木。日本原産唯一の柑橘類とされ、四国・九州・沖縄などに自生する。初夏に芳香のある白色の五弁花を咲かせる。京都御所紫宸殿（きょうとごしよししんでん）の「右近の橘」が有名。花言葉は「追憶」「永遠」。

○平城京ステークス

平城京（へいじょうきょう）は、元明天皇が710年に藤原京から遷都し、桓武天皇により784年に長岡京に遷都されるまでの都。京城は現在の奈良市から大和郡山市に及び、主要部は東西約4.3km、南北約4.8km。北端中央を平城宮とし、その南面中央から南下する朱雀大路の東側を左京、西側を右京、左京の東側へ張り出した部分を外京と呼んだ。

<第7日>

○京都ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、1999年に創設された障害重賞競走。高さ80cm、幅約16mのバンケット障害を使用し、遠近感の乏しい競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高い競走となっている。

○あずさ賞

あずさは、カバノキ科の落葉高木。深山に自生し、高さ20mにも達する。堅く弾力があるこの木で作られた弓は梓弓と呼ばれ、神事などに用いられる。

○上賀茂ステークス

上賀茂（かみがも）は、賀茂川と高野川の合流点から上流部の賀茂川流域一帯。賀茂別雷（かもわけいかづち）神社（上賀茂神社）を中心に社家町が形成されている。同神社では、毎年5月5日に日本最古の競馬と言われる「賀茂競馬（かもくらべうま）」が行われている。

○鞍馬ステークス

鞍馬（くらま）は、京都市左京区にある地名。奈良時代に創建された鞍馬寺は、後の源義経である牛若丸が厳しい修行を行ったことや、山に住む鞍馬天狗から武芸を習ったという伝説で有名。

<第8日>

○白川特別

白川（しらかわ）は、京都市北東部を流れる川。比叡山地に源を發し、祇園付近で鴨川に合流する。また、白川流域一帯の地名。古くは鴨川以東、東山との間の地区を指した。

○錦ステーキス

錦（にしき）は、京都市中京区にある市場の名称。色鮮やかなアーケードにおおわれた石畳の道が390m続き、京都の旬の食材や京野菜、京漬物などを扱った店が多数軒を連ねている。

○栗東ステーキス（L）

栗東（りっとう）は、滋賀県南部の市。野洲川南岸の平野と信楽山地北斜面の丘陵地を占める。米や野菜の生産が盛んな一方で、化学・金属・機械工業などの工業地帯としても発展している。

なお、同市にはJRAの競走馬調教施設である栗東トレーニング・センターがある。

<第9日>

○メルボルントロフィー

メルボルンは、オーストラリア第2の都市。ヴィクトリア州の州都でもある。フレミントン競馬場で毎年11月に行われる『メルボルンカップ』当日は、同州の休日に指定され、オーストラリア最大級のイベントとして大きな注目を集める。

○オーストラリアターフクラブ賞シドニートロフィー

オーストラリアターフクラブは、2011年2月にシドニー地区の2つの競馬クラブを統合して設立された団体。所有競馬場として、ロイヤルランドウィック競馬場・ローズヒルガーデンズ競馬場・ウォリックファーム競馬場・カンタベリーパーク競馬場が有名。

シドニーは、オーストラリア第1の都市。ニューサウスウェールズ州の州都でもある。ハーバー・ブリッジやシドニー・オペラハウスなどが観光地として世界的に有名。

○平安ステーキス（GⅢ）

本競走は、1994年に創設された重賞競走。2013年に距離がダート1800mから1900mに延伸され、時期も1月から5月に移設して実施されている。

平安（へいあん）は、平安京の略称。平安京は、794年に長岡京より遷都された都で、大きさは東西4.5km、南北5.2km。平安遷都1100年を記念して1895年に建立された平安神宮は、大極殿と応天門を模造し、平安京大内裏の朝堂院を3分の2に縮小し復元している。祭神は桓武天皇で、1940年に孝明天皇が併せ祀られた。秋には京都三大祭のひとつである「時代祭」が行われる。

○レーシングオーストラリア賞オーストラリアトロフィー

レーシングオーストラリアは、2015年4月、オーストラリアンレーシングボード・レーシングインフォメーションサービスオーストラリア・オーストラリアンスタッドブックを統合して設立された団体。競馬関係規程の策定、血統登録などの業務を行っている。オーストラリアは、オセアニアのオーストラリア大陸を占める連邦制の国。首都はキャンベラ。

<第10日>

○聖護院特別

聖護院（しょうごいん）は、京都市左京区にある寺院とその周辺の地域。排水の良い高燥地であったことから、かつては農業地域として利用され、聖護院ダイコン、聖護院カブなどの名が残っている。

○高瀬川ステークス

高瀬川（たかせがわ）は、京都市中南部にある運河。17世紀初め角倉了以（すみのくらりょうい）が鴨川沿いに開いた鴨川の分水路で、伏見を経て宇治川に通じる。名は、貨物運送の高瀬舟が上下したことに由来する。森鷗外の「高瀬舟」や、吉川英治の「宮本武蔵」などの中で描かれている。

○都大路ステークス（L）

都大路（みやこおおじ）は、京都市内を縦横に走る通りの総称。都の大通り、都の幅広い主要な道路のこと。京都は基盤の目状に区別された平安京を基に発達した町で、現在でも三条通、四条通といった当時を偲ばせる呼び名の通りが残っている。

<第11日>

○鳳雛ステークス（L）

鳳雛（ほうすう）は、鳳凰の雛のこと。また、将来が期待される優れた才分を持つ人物の雅称。中国の「三国志」で、軍師として有名な龐統は「鳳雛」と称され、周囲から将来を囑望されていたと言われている。

○桃山ステークス

桃山（ももやま）は、京都市伏見区の地名で、宇治川の北岸の地域。江戸時代に、かつて豊臣秀吉が築いた伏見城が取り壊され、その跡地に桃の木が植えられたことに由来する。

○葵ステークス（GⅢ）

本競走は、2018年に創設された3歳馬限定の重賞競走。2022年よりGⅢに格付けされ、2024年に負担重量が別定重量から変更となり、芝1200mの馬齢重量戦で実施される。

葵（あおい）は、アオイ科の植物の総称。また、家紋のひとつで、フタバアオイの葉を圖案化したもの。賀茂神社の神紋に由来し、徳川氏の葵巴の紋などが有名。同神社で5月15日に行われる葵祭は、石清水祭、春日祭とともに三勅祭のひとつに数えられる。

<第12日>

○與杼特別

與杼（よど）は、京都競馬場のある京都市伏見区「淀」の古称。同地には、鉄器の製造や稲作、機織りを伝えた秦一族が住んでいたことから、横糸を通す織物の道具である「杼（ひ）」にちなんで「與杼」という名が伝えられたとされている。京阪電鉄淀駅近くには與杼神社がある。

○安土城ステークス（L）

安土城（あづちじょう）は、滋賀県近江八幡市にあった城。現在は城跡全体が特別史跡に指定されている。1579年に織田信長が天下統一の拠点として築城した。信長は、その3年後に京都の本能寺で明智光秀に襲われ、安土城はそれに続く山崎の戦いの余波で焼失した。

○白百合ステークス（L）

白百合（しらゆり）は、ユリ科の一種で花の白いユリのこと。5～8月頃に花を咲かせ、主に観賞用として栽培される。花言葉は「純潔」「無垢」。

○渡月橋ステークス

渡月橋（とげつきょう）は、京都市右京区桂川に架かる全長155mの橋。付近にそびえる嵐山の景色を眺めながら、ボート遊びや屋形船、夏には鵜飼を楽しむことが出来る。